

「東北の美しい未来創造塾」を通じた サステナブルコミュニティ創出人材育成に関する実装研究

尚絅学院大学 現代社会学科 教授 森田明彦
特定非営利活動法人 みやぎスマートアグリ



目的・背景

4年目を迎えた被災地であるが、岩手県、宮城県、福島県の沿岸部は津波被災の爪痕が濃く復興はこれからである。都市部住民が沿岸部住民と交流し、環境保全型の復興を推進することが重要である。仙台圏の女性や高・大学生等を対象とした復興の地域（サステナブルコミュニティ）づくりを推進する人材を育成する「東北の美しい未来創造塾2014」を開催する。また、昨年度の受講者によるプロジェクト企画の実践（宮古市津波被災地におけるコミュニティガーデンづくりを通じたエコライフの実践、景観再生）を並行して進める。これらの実践を通じ、キャパシティビルディング、commons創出等を行い、その効果的なプロセスを検証する。

活動内容(2st stage)

第6回 1月17日 (土)	第7回 1月22日 (木)	国連防災世界会議パブリック フォーラムにて成果報告会 3月15日(日)
フィールド ワークin南 相馬	* 講演 「インクルーシ ブ・リーダー シップ」 川西由美子 さん) * 成果発表 会	* 3つのプロジェクト発表 ① 伊藤南さん (高校2年生) 「Raw Voice、」 ② 齋藤 由布子さん 「三陸の産品を集 めた地域ブランド Iki Zen MIYAGI Project」 ③ 平田千早子さん 「宮古コミュニティ ガーデン IN 鉾ヶ崎、日立浜

成果発表会で6つのプロジェクト発表

- ① 伊藤南さん (高校2年生)
「Raw Voice、第3回国連防災世界会議での発表に向けて」
- ② 大沼 洋子さん 「未婚の中高年の非正規雇用の女性や、養護支援などが終わった方の終の棲家づくり」
- ③ 小田 嘉子さん 「レンジャー女子部プロジェクト ～可憐にたくましく、自然と共生防災に挑む！～」
- ④ 齋藤 由布子さん 「三陸の産品を集めた地域ブランド Iki Zen MIYAGI Project」 起業準備開始
- ⑤ 高荷 聡子さん 「復興の街灯プロジェクト」 津波被災地の通学路に再生可能エネルギーを活用した街灯を設置する
- ⑥ 平田千早子さん 「宮古コミュニティガーデン IN 鉾ヶ崎、日立浜 2年目」

実施体制

役割	担当団体・専門家
「東北の美しい未来創造塾」事務局、フィールドワークコーディネーター	NPO法人 みやぎスマートアグリ
会場提供、参加者募集、事務局サポート	せんだい男女共同参画財団/仙台市
講座プログラム企画	関係者による企画委員会
講師	JKSK/地元企業/研究者/専門家
研究監修および学生への参加呼びかけ	尚絅学院大学
個別プロジェクト	「コミュニティガーデンin日立浜」(岩手県宮古市日立浜地区住民グループ)
受講者	仙台圏市民、高・大生(福島、岩手県民も参加可)

3月20日(土)~21日(日)
コミュニティガーデン④

住民が中心となりガーデンづくりを実践。ジャガイモの定植、梓づくり、花の定植。



成果

<成果・目標イメージ>	<取組と成果>
1. 女性や中高大学生が地域の資源を活用し、地域の課題を解決する環境保全型プロジェクト企画力が養われる	・プランニングシートを活用し、自らの思いを文字にし、企画する練習を行った。 ・6人が企画を発表した。
2. 「宮古コミュニティガーデンプロジェクト」を通じて、地元住民と都市住民が交流し、commons、景観再生、循環型の暮らしを体験できる	・本年度は地域住民のべ70人が、4回のワークショップを通じ、ガーデンのデザインを行った。実践としてはガーデンの施工、ジャガイモの苗や花の苗を植えた。来年度の継続体制について検討。
3. プロジェクトの推進を通じてインクルーシブ・リーダーシップが学べる	・2のプロジェクトや南相馬フィールドワークに際し、関係者を巻き込んだ企画・実践を通じ、インクルーシブ・リーダーシップを学んだ。
4. 講座の受講やプロジェクトへの参加を通じキャパシティビルディングが図られる	・企画立案、「東北復興日記」の執筆、フィールドワークへの参加を通じ、個人のスキルアップを図るとともに、プロジェクト推進者等はキャパシティビルディングに努めた。
<目標>	<実績>
・受講人数：20~40人	・座学は毎回20人前後（関係者を含め30人程度） ・フィールドワークはそれぞれ各回約30人参加
・フォローアッププロジェクト：2013年度から1つ（コミュニティガーデン）、2014年度から2つ	・「宮古コミュニティガーデン」（継続）平田千早子さん ・「IkiZenプロジェクト」齋藤由布子さん ・「東北の美しい未来創造塾2015」実行委員会

国連防災世界会議パブリックフォーラムにて
成果報告会を実施（3/15）



展望

- ・2015の開催は、**受講者による実行委員会形式で塾の実施を行う**ことを検討中。
- ・最後まで参加人数がキープできるよう、**受講者の担当メンター**を決めるなど、きめこまかくフォローする
- ・大学生の積極的参画方法も検討・実施する
- ・**サステナブル・コミュニティ普及啓発イベント「未来フェス」**を受講生を中心に実施する
- ・東北出身の3人のパイオニアである朝河貴一（福島）、吉野作造（宮城）、新渡戸稲造（岩手）と日本における協同組合運動の創始者の一人である賀川豊彦。彼等の足跡と関係を研究する



高校生による発表